

神 <sup>かけ</sup> その翳と光

ロッテルダム運河に、家族の愛と哀しみが揺れる。

キヌラフタ  
孤独な人の肖像

本年度アカデミー賞外国語映画賞受賞

🏆 '98年アカデミー賞外国語映画賞受賞

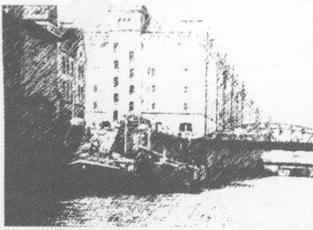
'97年カンヌ国際映画祭批評家週間出品 '97年東京国際映画祭ヤングシネマ・コンペティション出品 '98年パリ映画祭グランプリ受賞

マイケ・ファン・ディム監督作品

ヤン・テクレール フェジャ・ファン・フェット ベティ・スヒュールマン タマル・ファン・テンドップ

脚本:マイケ・ファン・ディム、ローレンス・ヘルス、ルット・ファン・メーヘン 製作:ローレンス・ヘルス 撮影:ロビー・ストツフェルス ファースト・フロア・フィーチャーズ製作  
JAN DECLERF FEDJA VAN HUET BETTY SCHURMAN TAMAR VAN DIEN DOOP regisseurs MIKE VAN DIEM scenario LAURENS GEELS RUIJD VAN MEGEN producer LAURENS GEELS fotografie ROGIER STOFFERS een FIRST FLOOR FEATURES productie

📀 配給/提供:アルシネラン KARAKTER タイトル・デザイン:荒木経惟 字幕:謝敏尚子



# キャラクター 孤独な人の肖像



映画だけど、小説を読んでいるような気がずっとしていた。文庫本じゃなく、ハード・カバーで…

[プレス試写を観た編集者]

## 解説

窓辺に一人の女性が佇んでいる。視線は曇ったガラス窓を通して遠くに放たれてはいるが、何かを見ているということでもないようだ。髪を無造作に後ろでたばね、肩から手編みのショールをかけて手にはタオルのようなものを下けている。光は窓から頼りなげに届き室内は暗い。カメラはその女性に向かってゆっくりゆっくりとトラック・アップで近づいていく。

倉庫のような巨大な建物の薄暗い部屋の隅に一人の人物が座っている。かなりの距離からカメラは真正面のその人物に迫っていく。やがてその人物の鋭い目と酷薄な表情がカメラに捉えられる。顔に刻まれた深いシワ、額まで覆う白いヒゲ。

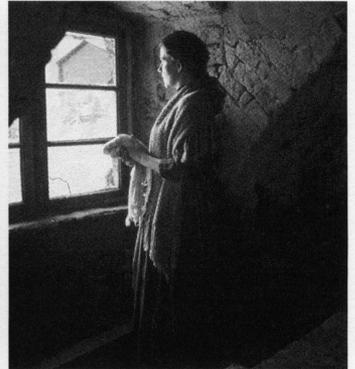
オランダの誇る画家フェルメールやレンブラントの名画の数々を思わず重ね合わせてしまう作品。98年のアカデミー賞の外国語映画賞を獲得したオランダ映画『キャラクター／孤独な人の肖像』である。

舞台は1920年代のオランダのロッテルダム。この運河の町に住むある男とその息子、その母親、この3人の愛と憎しみの物語が烈しい緊張感をもって描かれる。

町の実力者で冷酷な税務執行官として畏れられていた男に、暴力に近い形で性交渉を持たされた女が、その男の子どもを生む。私生児として生まれた少年はしかし、父を知らず、当然のように、まだ見ぬ父親に憧憬を抱きながら育っていく。愛の表し方を知らないその男は彼流の無骨なやり方でしか女と、その子どもに接することができる。やがて少年は成長し、全てを知ることになる。その時ドラマは大きな転回を迎える。

人間にとって、もっとも根源的でもっとも基本的な“家族”という人間の関係。映画は重い雲の垂れ込めるロッテルダムという古い港町に、そうした厄介で、永遠の課題を丹念に、重厚に繰り広げていく。映像は美しく、カメラは流麗で、俳優たちは上手い。アカデミー賞受賞のゆえんがここにある。

脚本は、オランダの作家F. ボルデバイクの二冊の小説「キャラクター」と「ドレイブルハーブンとカタドロフ」を基に監督のマイケ・ファン・ティムが他の2人と書き上げたもの。ファン・ティムは1959年生まれ。これが長篇映画としては第一回の作品となる。この世代らしくアメリカのサスペンスやアクション、フランスのフィルムノワールから受けた影響が色濃く見られる。撮影はロヒール・ストッフフェルス。出演者は父親のドレイブルハーブンにベルギー人の、舞台と映画の俳優ヤン・テクレール、運命の青年ヤコブ役にはオランダはデンハーグ生まれのフェジャ・ファン・フェット。母親役にはオランダ人のベティ・スヒュールマン。他オランダ、ベルギーの実力派俳優、女優が多数出演。98年のアカデミー賞受賞を頂点として世界中の映画祭で沢山の賞を獲得している。



これは観ておくべき作品なのだ、と思った。1998年度を代表とするものとして…。

ロケの風景が実にドラマに溶けあっていて、**正統派作品**という印象だ。

[プレス試写を観た女性ライター]

## 正統派作品

## 物語

ロッテルダムでヤコブという青年が逮捕された。容疑は殺人である。強欲で鳴る金融業の老人ドレイブルハーブンの死体が発見され、生前、最後に会ったのがヤコブだった。彼には動機が十分にあったと見なされたのだ。

時代はさかのぼる。港町ロッテルダムを仕切る酷薄な税務執行官ドレイブルハーブンはある日、メイドのヨノバに強引に関係を迫る。ヨノバは彼の許を去り、やがて男の子を出産する。ヤコブである。ドレイブルハーブンは無骨極まりない男で実はヨノバに惚れていたのだった。同じ町にひっそりと暮らすヨノバに何回も郵便で結婚を申し込むがヨノバは頑として受け付けな。貧しいが母と子の暮らしは平穏だった。やがて“父なし子”とからかわれるヤコブの心にいっしょか父親像が育っていく。肉体労働をしながらたくましく育ったヤコブはなかなかの商才を発揮し、商売を始めるが結局は失敗、破産宣告を受ける。彼に思想的影響を与えたのは下宿人となったヤンだった。彼は社会主義政党に属する理想主義者だった。

やがてヤコブは弁護士事務所働くようになり、そこで本格的に弁護士を目指して勉強を始める。そして、その事務所の美しい女性秘書ローナに恋をする。酷薄な男ドレイブルハーブンが自分の父であることはいつの頃からか知っていたが、その父が彼の人生にこの辺りから深くからんでくる。ある時に債権者として、ある時は彼のピンチを救う金貸し業者として。その姿容ぶりはヤコブにはとても理解できないが、実はドレイブルハーブンの心の奥底には常人には理解しえない、屈折した想いが、“息子”ヤコブに対して育まれていたのであった。

弁護士資格を取得した嬉しい夜、ヤコブはたった一人で時を過ごすドレイブルハーブンの事務所に入り込む。今までの抑えに抑えていた感情を激しくぶつけあう二人。憎悪のありつけをむき出しにして殴り合う二人。そして翌朝、ドレイブルハーブンの死体が発見された。

## KARAKTER

1996年オランダ映画／カラー／35mm／1:1.66ヴィスタサイズ／ドルビー  
2時間5分／配給：アルシネテラン

※この映画のタイトル・デザインは荒木経惟氏によるものです。

# 10月24日(土)ロードショー!!

特別鑑賞券発売中! 一般¥1600(当日一般 ¥1800)

ナビオ阪急北向い ☎ 311-2478

OS劇場 C.A.P

上映時間 ① 10:40 ② 1:15 ③ 3:50 ④ 6:40

